

アメリカ留学報告

情報文化学科 2年 柄澤亜美

私は2014年8月20日～12月13日の約4ヶ月間アメリカのミズーリ州に設立されている **Northwest Missouri State University** へ留学に行きました。私がアメリカへの留学を志望した理由は、アメリカ英語の向上は勿論、何よりもアメリカの文化を体感したかったからです。アメリカへ行くまでに **Visa** の発行手続き、必要な持ち物の買い出しなどをしてアメリカへの留学の準備をしました。出国当日、成田空港から飛行機に乗った私は無事にアメリカの **Northwest Missouri State University** に着くことができるのか少し不安でしたが、何事もなく無事に到着しました。その後、現地の大学生に **Franken hall** という寮へ私たちを案内してもらいました。その大学生に寮の使い方やマナーの説明をもらったのですが、何を話しているのか殆ど聞き取れず、自分の英語の聞き取りの低さに焦りを感じました。寮の説明を聞いた後に、私のルームメイトはどんな外国人なのかとドキドキしながら部屋へ向かいましたが、私のルームメイトは同じ大学の日本人でした。その日はアメリカで初めて買い物やバスへの乗車を経験しましたが、それらすべてのことが新鮮に感じられ、アメリカに来たのだということを実感しました。

翌日から大学に関する手続きや **ESL(English as a Second Language)** のガイダンスなどがありました。それから約1週間後に授業がスタートしました。授業は **A** クラス、**B** クラスに分けられ、私は基本的な英語を学ぶ **B** クラスでした。授業は **CEP** のように全て英語でした。授業が始まったばかりの頃は、先生方が何を話しているかあまり聞き取れず授業についていくことに苦労しました。また、先生方は生徒に積極的に発言することを求めます。先生方が話していることが聞き取れず殆ど理解出来ない私は、自分の発言に自信が持てずなかなか発言出来ませんでした。そんな様子の私に気づいた先生が、分からないことや理解できないことがあったら質問するように言ってくれました。またその質問も発言に加算されると教えてくれました。それから私は授業中に分からないことがあれば質問するように心がけ実践しました。先生方は私たち生徒のことをよく見ていて、私たちが眠そうにしていたら音楽を流して一緒にダンスしたり、私たちが授業を理解していない時は分かりやすい言い方に直して説明してくれたり、私たちに授業を熱心に教えてくれました。日本で今まで受けてきた授業では授業中にダンスをするということは無かったため、とても興味深く感じ何よりみんなが踊っている姿を見ることが楽しかったです。私はそのような勉強スタイルがとても好きでした。授業では様々なことをしましたが、中でも私は週に1度、人前でスピーチをする **Speaking** テストが苦手でした。人前で話すことは留学に行く前から苦手で、**Speaking** テストで話す内容をきちんと頭に入れて臨んでも大勢の人が目の前にいるということを意識してしまうと、スピーチをしている途中で頭が真っ白になり何を話そうとしていたのか忘れてしまうのです。スピーチを聞いた先生からはいくつかアドバイスを頂きましたが、自分の思うようなスピーチに達することには時間がかかりました。しか

し、スピーチの回数を重ねるごとに人前で話すということに慣れてきて、緊張することも減っていきました。これから大学生活やいろいろな場面で人前で話す機会があると思うので、この経験は自分にとって良い経験だったと思っています。

授業以外にも週に2回1時間 **Conversation partner** というネイティブの先生と同じ大学の子1人と組みになって話す機会もありました。私のパートナーの名前は **Melanie** という年上の美人でユーモアのある女性でした。初めて **Conversation** をしたとき、私は彼女が話す英語の速さについていけない上に、自分が話したいことがなかなか英文にできないことにもどかしさを感じました。それとともに彼女ともっと話したいという気持ちも生まれました。それ以降、彼女の話が聞き取れなかった場合は、もう少しゆっくり話してもらうようお願いしたりしました。**Conversation** の回数を重ねるにつれ、社会の問題など英語で話すことが難しい内容も少しずつ話せるようになりました。そのような難しい内容は英語力の乏しい私にとって全部を完璧に理解することは出来ませんでした。最初に比べて英語を話したり聞いたりする力は伸びたと思います。

寮での生活は同じ大学の子と約1ヶ月間同室でした。その子には私が風邪を引いたときに看病をもらったり、宿題で分からないところを教えてもらったりして色々な面で助けられました。日本人がルームメイトなら難なく会話することが出来るし、文化の違いに困ることも無いため、部屋での生活に何の不満もありませんでした。それと共にせつかく異国に来たのだから異なる言語や文化を持つ人と同室になりたいという気持ちもありました。後に寮長のような存在でありボスと呼ばれる人に頼んで、1ヶ月後にアメリカ人の **Julie** という子の部屋に私を移動させてくれました。彼女は私より1つ年下で身長が高くて笑顔がとても素敵な子でした。**Julie** の部屋への移動が決まり私が部屋を移動する約2週間前に、突然 **Julie** は私にメールをくれました。私のメールアドレスは寮のボスに聞いたらしく、メールの内容は私に対しての食事への誘いでした。その時、私は **Julie** に対して話したこともない相手を食事に誘うなんてフレンドリーな人だろうと思いました。そして、食事へ行きお互いに自己紹介をしました。**Julie** が話す英語を上手く聞き取れないし何を話していいかわからない私に **Julie** は、アメリカで受けている授業や日本について、好きな映画や食べ物、趣味など様々な質問を私に分かりやすい言葉で聞いてくれました。**Julie** と同室になった後も、彼女はフレンドリーでとても親切でした。彼女は度々私を映画鑑賞や食事、ドライブに誘ってくれたり、彼女の友達も紹介してくれました。彼女のおかげもあり寮での生活は充実したものでした。

大学のイベントは盛んで、沢山のイベントが毎日と言っていいほど活動的に行われていました。私にとって特に印象的だったイベントはフットボールゲームの観賞でした。フットボールゲームを日本で実際に見たことが無かった私にとって、初めて観賞したフットボールゲームはとても興奮するものでした。ルールはよく分かりませんが、フットボールゲーム以外にもチアリーダー達による応援やパレードなど多くの楽しめる要素がありました。

また、**Thanks giving day** も私にとって印象的だったイベントの一つです。**Thanks giving day** とは 11 月にアメリカで行われている感謝祭のひとつです。**Thanks giving day** では私はルームメイトの **Julie** の家に約 5 日間滞在しました。その間、彼女の家族は様々な形で私をもてなしてくれました。家の中に居るときは、ハリーポッターやナルニア国物語などの映画やアメリカの番組を見て笑い合ったり、一緒に料理と作ったり、ツリーの飾りつけをしました。彼らが振る舞ってくれた **Thanks giving day** の定番料理である七面鳥やパンプキンパイなどの特別な料理は忘れられないくらい美味しかったです。あまりの美味しさに私は感動し、**Julie** の母 **Cindy** にレシピを教えてもらいました。**Thanks giving day** の金曜日は全米のショッピングモールで **Black Friday** と呼ばれる大セールがあります。そのため、**Julie** にカンザスシティのショッピングモールに連れて行ってもらい、家族や自分へのお土産が手軽な値段で購入することができました。その他にも、彼女の友人 **Lindsay** と **Lindsay** の母と映画やクリスマスのイルミネーションを見に行きました。映画館では、「ハンガーゲーム **FINAL**」を見てきました。上映中、観客が「Wow」「Really??」などリアクションをしている声が飛び交いました。映画の後に、食事に連れて行ってもらいました。食事中に **Lindsay** が「どうしてあなたは食事中に手を口にあてるの？」と質問されました。それを聞かれて、私は今まで自分が食事中に口にあてる動作に疑問をもったことがなかったため私も不思議に思ってしまった。それ以外にも、「アメリカのバレンタインは男性が女性にチョコを渡すことが一般的なのに、どうしては女性が男性にチョコを渡すの？」などといった質問もありました。外国人や異なる文化を持つ人と関わると、このような自分が今まで不思議に思ったことのないようなことを不思議に思えたり、新たな発見をすることができるので面白いです。食事後にイルミネーションを見て車に乗って **Julie** の家に帰りました。帰りの車内では、音楽の音量を最大にしてみんなで楽しく歌ったことを憶えています。**Julie** の家に行く前は少し不安や緊張を抱えていましたが、**Thanks giving day** の最終日は正直寮へ帰りたくありませんでした。私に暖かく接してくれた **Julie** の家族と離れることがとても寂しかったからです。**Julie** の家族は母 **Cindy**、兄 **Mike**、**Julie** の三人暮らしです。彼らはとても仲が良く、毎日寝る前に感謝の気持ちを伝え合ってキスをします。彼らはお互いのことをとても大事にしているような気がしました。それは家族の暖かい光景をみて、私は自分の家族のことを思い出しました。私は普段家族に対して感謝の気持ちを伝えていないため、

帰国後に家族に感謝の気持ちを伝えようと思いましたが、感謝の言葉を伝えるだけだったら簡単に言えますが、その時は感謝の気持ちを伝えることへの重みを感じました。私の **Thanks giving day** はそのような様々なことを感じさせてくれるものでした。

日本へ帰国した日は、アメリカへ到着した時のように日本でofすべてのことが新鮮に感じましたが、帰国してから約 2 ヶ月経った今はアメリカで経験したことが懐かしく感じます。この留学では、多くの人と出会い、様々な面で多くのことを考えた気がします。それらはこの留学報告書では収まりきれないし、文章では伝えることの出来ないものも多いです。

そのため、留学を考えている人がいたら是非行ってほしいです。留学ではこのような貴重な経験をすることができましたが、いくつかやり残したことや今になって思いついた、しておけば良かったことなどもあるので、いつかまたアメリカのミズーリに行きたいです。

